

中国上海市盧湾区の養老院におけるサービスの現状と課題

侍 政 小池 和幸

キーワード：養老院、サービス、満足度

A study on the current state and issues of care service in Luwan, Shanghai, China

Zheng Shi Kazuyuki Koike

Abstract

Shanghai is the first city in transition to an aging society since 1979 and Luwan District, and the highest rate of aging. According to statistics from the sixth census of 2010, people over 60 reached 26% of the total population ---a super-aging society.

Issues of aging and the deterioration of the implementation of one-child policy have reduced the ability of the traditional family care. Recently, it has increased use of nursing home elderly.

The purpose of this study is to clarify and analyze the current situation and issues satisfaction of nursing home care services in Luwan District.

Results are as follows.

- 1) The average age of residents was 83.3.
- 2) The main reason for nursing home use is difficult to care home residents a high level of care.
- 3) The nursing home meals, rooms, facilities, care staff satisfaction with services was high.
- 4) Satisfaction with recreational services such as leisure satisfaction was lower compared to meals, rooms. 40% of residents were looking for leisure entertainment services. However, 30% of residents did not want the leisure entertainment services.
- 5) 70% of leisure time watching television residents, 30% of people are reading newspapers and talking to friends.
- 6) The public people in nursing homes were higher satisfaction with life than those of private nursing home.

I. はじめに

1. 中国の高齢化の現状

中国の「老人權益保障法」(1996年制定)では60歳以上を高齢者として規定した。2010年末現在、中国第六回人口調査の結果により、中国の総人口は、13.8億人に達し、中国総人口の13.26%(1.78億人)は60歳以上の高齢者であり、8.87%(約1.19億人)は65歳以上の高齢者である。2050年には中国人の10人に3人は60歳以上の高齢者になると見られる。

2006年2月に全国老齡工作委員会が公布した「中国人口老齡化發展趨勢予測研究報告」によると、中国における60歳以上の高齢者人口は2025年から2040年にかけて2.84億人から4億人へ増加すると予測している。今後50年間、中国の高齢者人口は急激な増加傾向にある。

2. 上海の高齢化の現状

2010年末現在、中国第六回人口調査の結果より、上海市総人口数は2301.91万人に達し、その内上海市に戸籍を持っている人口は1412.32万人に達した。総人口の15.03%(約346万人)は60歳以上の高齢者であり、10.12%(約233万人)は、65歳以上の高齢者である。上海は中国で最も経済が発達している都市であるが、1979年には60歳以上の高齢者の数が総人口の10.07%に達し、中国において、一番最初の高齡化都市となった。その後、上海市の高齡化は急速に進んでいる。また、子供のいない家庭や独居高齢者の数が増える傾向にもあり、日本と同様の少子高齡化社会の問題を抱えている。

3. 盧湾区の高齡化の現状

上海の18の区・県の中で高齡化が最も顕著なのは盧湾区である。盧湾区は上海の中心にあり、上海市で最も面積が狭く、古い区である。商業を中心とし、その中の最も有名な商業エリアは淮海路商業エリアであ

る。2010年末現在、中国第六回人口調査の結果より、盧湾区総人口数30.44万人に達し、全区総人口数に対する60歳以上の高齢者の数は8.01万人達し、盧湾区総人口の26.31%になる。65歳以上の高齢者は5.62万人で、18.46%である。

4. 上海における高齢者の介護

中国では、長い歴史を通して、儒教の影響による家族扶養を支えてきた。老人介護の伝統は、家庭介護が一般的であった。よって、政府の養老院は家庭介護ができない高齢者を主対象に保護していた。上海市においても家庭介護が中心で、家庭で介護のできない高齢者を対象に養老院が同様に世話をしてきた。しかし、養老院の数は少なく、サービスの質も低かった。改革開放政策の初期(1978年-80年代前半)、人口の高齡化拡大に伴う家庭介護能力の低下、また世の中の高齡者介護における観念の変化により、上海市の養老院は社会の高齡者介護ニーズに対応ができなくなった。そのため、1984年、市政府の関係部門は、区・県に対して養老院を一軒設けること、また郷・鎮に対してもは養老院を一軒設けることを義務付けた。この政策は、1990年代中期に完了し、市、区・県、郷・鎮という三位一体の養老院ネットワークを構築した。これらの養老院が「三無」高齢者(収入、労働能力、法定扶養者がいない高齢者)を受け入れるとともに、新たな高齢者介護ニーズに対応していった。

1990年代中期から2010年までの期間に、上海市は高齡化社会を迎え、養老福利事業を国民經濟發展計画に組み込んで始動している。具体的な計画として、1994年から毎年25軒の養老院を設立するというプロジェクトを推進している。

1990年代中期から、中国社会の伝統であった家庭高齡者介護が減少していき、(家庭を有する)高齢者の養老院への入居希望の

ニーズが広がってきている。上海市政府は1998年から毎年、2500床ずつ増加し、規模の大きな養老院が次々と設けられた。同時に社会福祉の充実を提唱し、政府のみが行っていた社会福祉事業を民間団体・企業に対して門戸を開いていった。

5. 中国の保険制度

中国の保険制度は、通常、養老保険（年金保険）と医療保険を分けている。

中国の養老保険（年金保険）制度は、労使政三者拠出によって構成され、労使が賃金収入の一定比率に応じて保険料を納付することになっている。納付は個人が給与の8%、企業が給与の20%を保険者である政府に払い込む形式である。保険者である政府は、個人負担の8%と企業負担の20%のうち3%を個人別の個人口座に積み立てる。残りの企業負担金を社会プール基金として積み立てる。

定年退職後、社会プール基金から基本年金（前年度当該地域月収入の20%）、個人口座から上乘せ分（当該口座積み立てた総額の120分の1）を合わせて給付する。

養老保険は、法令の下で施行され、すべての業種に適用され、一定の強制力をもっている。中国の地域格差が大きいという特性に鑑み、その保険料や納付率について省・地域ごとの実情にあわせて決定することになっている。

中国における現行の医療保険制度は養老保険（年金保険）制度と共通して中核となる。医療保険は、「社会医療保険」、それを補助する「互助医療保険及び医療救助」「商業医療保険」から成り立っている。社会医療保険の適用者は、都市部の住民を主としており、農村部は含まれない。農村部で実施された医療制度は互助的性格を持つ「農村合作医療」である。

社会医療保険の基金は社会プール医療保険基金と個人口座を設け、個人納付した保

険料はすべて個人口座に積み立て、企業が納付した保険料は30%を個人口座に、70%を社会プール基金に積み立てる。保険料率に関しては、企業が総賃金の6%、個人は本人の給与の2%を原則とする。

また、社会プール医療保険基金と個人医療保険口座の用途については、軽い病気の医療費は個人口座から引き落とし、重い病気は社会プール基金から拠出すると明記されている。社会プール医療保険基金と個人口座は別々に運営されており、両方の流用は認められていない。口座の残高を超えた部分については、患者の個人負担となっている。個人負担額は、当該地域の年間平均賃金の10%前後以上、かつ400%前後までの医療費は社会プールから支払われる。400%を超える高額医療については商業保険でカバーするしかない。

6. 中国における養老施設等の仕組み

養老院とは、高齢者が自分の家において世話を受けることが困難な高齢者を入所させ、養護することを目的とする入居式施設のことである。サービスの対象は60歳以上の高齢者で、心身の健康状態が悪く日常生活において自立ができない高齢者・介護者（家族）がいない高齢者等である。サービス主要内容は食事の提供、身体介護等である。また、余暇・娯楽レクリエーションも提供される。

養老院は、国立、民営と私立のものがある。（図1）

国立養老院とは所在地の政府民政部門から出資し、建設し、政府部門が運営している養老院であり、利益をうる目的ではない福

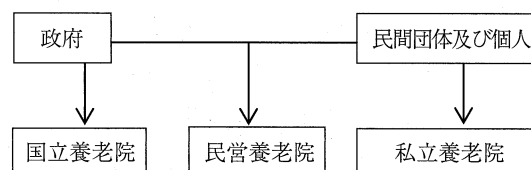


図1 養老院経営モデル

祉施設である。区域内に住んでいる高齢者に「入住式」養老サービスを提供するのが国立養老院の経営目的である。国立養老院は当地の戸籍を持っている高齢者にしか養老サービスを提供しない。

民営養老院とは政府と個人或いは会社が連携し、設立した養老院である。具体的にいうと、所在地の政府民政部門から出資し、建物や設備を提供してもらう。又は、政府民政部門から一部分の建物や設備の費用を提供してもらう、残った一部分の費用は個人或いは会社から出資してもらう、そのうえで政府からの委託で個人或いは民間会社が養老院を管理運営をする。これは最近出た新たな経営モデルであり、これである程度政府の管理コストと養老問題に対する負担を軽減することができる。

私立養老院とは個人或いは民間会社が政府へ申請を提出し、許可がおりたら、個人或いは民間会社が出資し、経営する養老院である。政府は社会団体が養老院を設立するのに、負担を軽減するために、毎年、1ベッドで8,000元～10,000元まで私立養老院に資金援助をする。(例えば、ある私立養老院にベッドが100個あり、1ベッドで10,000元の援助金とし、まとめると、政府は毎年私立養老院へ100万円の援助金を出すこととなる)。私立養老院のような経営モデルはある程度、政府のコストと利用者の養老院入居費用の軽減につながる。

2010年の統計によると、上海市の養老院数は625ヶ所、97841床である。高齢者人口数に対するベッド数の割合は3%になった。1996年の統計結果より、260ヶ所、84277床、増加した。

デイサービスセンターとは、コミュニティにおける高齢者、独居者、子供のいない高齢者などへ、食事受給困難な問題を解決することと高齢者のQOLを高めるためことを目的とした日帰り型の養老施設であ

り、利用者は毎日朝9時から午後5時まで、デイサービスセンター施設で食事、娯楽、健康づくりと心理的安定等のサービスを受けることができる。

2010年の統計では、デイサービスセンターの数は303ヶ所で、サービスを受けている高齢者は9000人に達している。2005年の統計より、220ヶ所、利用者数は6892名が増加した。

在宅サービス支援センターとは、政府がコミュニティに委託して、在宅高齢者へ生活サポートを目的する福祉機関である。サービスの主な内容は、家事援助、身体介護援助、精神的ケアなどである。

2010年も統計では、在宅サービス支援センターの数は233ヶ所、1ヶ月間にサービスを受けている高齢者は、25.2万人に達している。その内、政府援助を享受している高齢者が13万人で、在宅サービスを受けている高齢者全体の51.6%を占めている。

7. 養老院の介護職、管理者と護工

養老院の管理者とは、関連専門を習得した短期大学卒以上の学歴と専門知識に関する研修を受けた、専門の資格を持ち、養老院の管理業務に従事している人のことである。養老院の管理者の配置は、施設全体の従事員総数の10%以下という規定がある。

養老院の護工とは、養老院で、施設の利用者に介護サービスを提供する人のことである。勤務前における研修に合格し、「上海市護工許可書」を取得しなければならない。養老院利用者と護工の配置基準は以下のとおりである。

- ①護工と施設利用者との割合は、護工が三級介護をうける割合は護工一人に対して利用者は5～10人
- ②護工が二級介護をうける割合は護工一人に対して利用者は3.5～5人
- ③護工が一級介護をうける割合は護工一人に対して利用者は2.5～3.5人

- ④ 護工が専門介護をうける割合は護工一人に対して利用者は1.5～2.5人

II. 研究目的

1979年から中国は一人っ子政策の実施、核家族化によって家族の規模が小さくなり、高齢者夫婦のみや一人暮らし高齢者が増える一方である。三世代の伝統家族が少なくなり、「421」という人口構造（夫婦の二人が4人の老人と1人の子供を扶養する）と一人暮らし老人が増加し続けている。その影響から、伝統的な家族扶養機能が弱まり、高齢者扶養問題はますます深刻な社会問題になっている。このような状況の中で、上海市では、高齢者の扶養は、家族を中心とする方式がやがて崩壊すると言われており、高齢者介護の社会化が新しい社会問題として顕在化している。さらに、急速な経済発展により、2010年の上海の一年間の平均一人当たりのGDPは1.1万ドルである。それにともない現在の上海の高齢者は質の高い生活や養老施設を求める傾向が高まって来ている。現在、盧湾区の高齢者人口の増加に伴い、高齢者施設の不足や利用者の求める福祉サービスの内容や質の改善などが社会的な問題となっている。本研究は上海市盧湾区の養老院の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

III. 研究方法

1. 実地調査

1) 調査対象

上海市盧湾区の国立養老院と私立養老院の二つの養老施設事前実地調査を行った。

2) 調査期間

2010年8月9日から9月9日

3) 調査内容

主な調査内容は養老院の概況と養老院のサービスの種類である。

2. アンケート調査

1) 調査期間

2011年8月21日から9月11日

2) 調査対象

上海市盧湾区の国立養老院、私立養老院と民営養老院の五つの養老院の利用者にアンケート調査を行った。

3) 調査方法

手渡しによるアンケート調査

4) アンケートの回収率92%（配布150枚 回収138枚 有効回答数131枚）

5) 調査内容

- (1) 養老院の利用者基本的情報
- (2) 養老院の介護サービスなどに関する事柄
- (3) 養老院の余暇・娯楽サービスに関する事柄

IV. 結果のまとめ

- 1) 年齢：利用者の平均年齢は83.2歳±8.3歳であり、高齢である。
- 2) 男女比率：男女比については、男性が36.4%、女性63.6%、女性の利用者がほぼ男性の2倍である。
- 3) 入居年数：入居の平均年数年数は4年±2.6年であった。
- 4) 年金：利用者の養老年金の平均保有率は74.2%であった。
- 5) 平均費用：利用者の平均費用2031.8元（2.5万）
- 6) 介護等級：利用者の介護等級については、一級介護の数は最も多く、65.2%。二級介護が21.2%、三級介護が6.2%、専門介護が1.5%であった。比較的重度の利用者が半数以上を占めている。
- 7) 学歴：最終学歴については、小学卒が最も多く、42.2%で、中学卒が23.5%、高校卒が9.8%、大学卒が6.8%、その他が17.4%であった。高学歴の利用者は少なかった。
- 8) 既往歴については、高血圧が最も多く、

46.2%。次いで、心臓病が33.3%、糖尿病が27.3%、脳血栓が26.5%、骨折が12.1%、癌が3.8%であった。(表1)

表1 全体の既往歴

	高血圧	糖尿病	脳血栓	心臓病	骨折	癌
ある人	61人	36人	35人	44人	16人	5人
ない人	71人	96人	97人	88人	116人	127人
患う割合	46.20%	27.30%	26.50%	33.30%	12.10%	3.80%

9) 養老院へ入居する大きな理由は、現在の各家庭では家族が、介護度が高く高血圧や心臓病を有する高齢者の世話をすることが困難であるからであった。(図2)

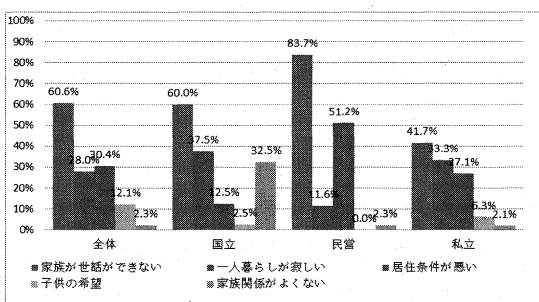


図2 施設へ入居した主な理由

- 10) 養老院を選ぶ基準として高いものは、養老院の設備とその養老院のそばに病院があるということであった。
- 11) 養老院を利用する費用は本人や本人と子供とで支払っている場合が多く、また、料金の設定については、6割以上の方が、普通であると認識していた。
- 12) 養老院のサービスの満足度は、食事・居室・設備・管理者の対応・護工対応について調査した。それぞれの結果は、8割～9割が満足していた。また、余暇・娯楽サービスについては、食事や居室などのサービスに比べると低い傾向にあり、5割の満足であった。(図3)

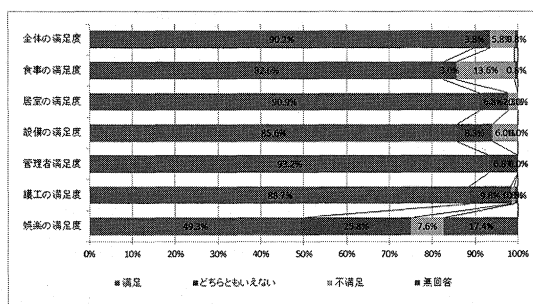


図3 養老サービスの満足度

- 13) 利用者の養老院における娯楽に対する欲求は必ずしも高いとはいえない。約4割の人は何らかの娯楽サービスを求めているが、約3割の人は娯楽サービスを求めていなかった。
- 14) 現在の養老院で実際に行っている娯楽サービスは、テレビの視聴が最も多く、約7割、次いで新聞を読む・友達と話すが約3割であった。

V. 考察

調査結果より、現在の上海盧湾区の養老院の現状と特徴を述べる。

養老院の利用者の年齢が高く。養老院の利用者の平均年齢は83.3歳で、後期高齢者の方が多い。疾病では、高血圧、糖尿病などの高齢者が多く自立生活を困難にしている。核家族化が進む、現在の家庭環境では要介護高齢者は施設入居サービスである養老院で介護してもらわざるを得ない傾向にある。結果的に家庭に経済的負担をかけている。

国立養老院の建物や設備は新しいものが多いが、費用も高い。民営養老院のほうは国立養老院ほど費用は高くはないが、私立に比べるとやや高い。私立養老院の利用者の費用への認識は普通だと思っている人が全体の6割、高いと思っている人が全体の1割であり。利用者の認識からすると盧湾区では私立の費用が理想的であると思われた。

今回の調査では、養老院の各種サービスへの満足度が全体的に高い傾向にあった。

その要因を考えてみると、一つに利用者が寝たきりであるなど介護度が高い事があげられる。介護度の高い利用者は、介護サービスの内容や質を求めるといよりは、人が生きていくうえで最低限の衣食住のサービスがうけられるだけでも満足を感じる。つまり、暖かい所に住むことができ、3度の食事が提供され、ある程度の身体介護が受けられることで、それを満足の評判基準としたのだと思われる。

現在、入居している利用者の多くは、第2次世界大戦当時に生まれ、幼いときに不安定で、決して高いとは言えない質の生活を体験している世代である。

したがって、質の高い生活が理想的で、その様々な生活を送りたいと理解しながらも、食事、住居等の生活機能がある程度、保障されることで、調査には満足であると回答したとも考えられる。

これらのことを考慮すると、調査結果の数字だけでサービスの満足度をそのまま利用者の満足度及びサービスの質と関連づけて判断することは難しい側面もあると思われる。

娯楽サービスへの欲求が低い理由も現在の利用者の生活歴や時代背景からくる娯楽への価値観や娯楽ニーズの所在の違いからくるものだと予測できる。

全体的には、国立、民営、私立の養老院における利用者の満足度は高い結果になった。経営モデル別のサービスのちがいのについての検討は実施しなかったが養老院の3つの経営モデルによってサービスの満足度には差がみられる。

例えば、国立と私立では食事、居室、設備、管理者について国立のサービスの満足度が高い結果になった。これらの満足度の差は、サービスの質と関係があると思われた。

また、これらの差は、養老院の利用費用と関係があるようにも思われる。費用が高

ければ、それなりにサービスの質も高くなる。利用料金の差は、当然現在の中国のそれぞれの経営モデル別の補助等のあり方に関係する。

養老院のサービスが必要な高齢者が手ごろな費用で、これらのサービスを受けられるよう、今後は、国全体の経営モデル別の補助のあり方についても検討がなされる必要があると思われた。

今回の調査はサービスの満足度という視点で実施した。

養老院のサービスへの満足度への差が生じることは当然それぞれのサービスの質との関係が重大である。今後はもう少し養老院内の食事、居室など個々のサービスの質に関する詳細について調査することが必要であると思われた。

今後も大きな変化が予測される、現在の上海で生活する人たちの生活様式や余暇・娯楽に対する価値観などを考えると今後の養老院における、様々なサービスの内容や質を検討する必要がある。

中国においても、日本同様に変化する利用者の新たなニーズになるべく早く対応することが重要になると思う。

また、3つの経営モデルのサービスについても、それぞれのサービスのあり方や役割、機能について中国の福祉事情や利用者の介護度の程度、経済的状况に合わせて検討しなければならないと感じた。

VI. 参考文献

- 1) 贾晓海 (2008) 中国・高齢者ビジネス—上海リポート. ヒューマン・ヘルスケア・システム.
- 2) 熊澤幸子・成瀬光一・吉川かおり (2006) 社会福祉総論. 大学図書出版.
- 3) 劉燦 (2010) 現代中国農村の高齢者と福祉. 日本僑報社.
- 4) 李琴・孙艳艳 (2003) 民办养老机构中老

- 年人基本生活状况调查. 社会福利, 02:31-38.
- 5) 吕新萍 (2004) 养老院老人的需求与养老机构专业化—对北京市某养老院的个案研究. 人口与经济, 01:65-68.
 - 6) 刘红 (2008) 我国民营养老机构存在的问题及对策. 特区经济, 07: 146-147.
 - 7) 増田雅暢 (2009) 世界の介護保障. 法律文化社, pp:113-132.
 - 8) 内閣府 (2009) 高齢社会白書. 佐伯印刷株式会社.
 - 9) 彭亮 (2010) 东部沿海地区老年人口状况及特征性的比较. 上海老龄科学, 02:56-66.
 - 10) 上海市民政局 (2009) 2009 上海社会福利年鉴. 上海市民政局.
 - 11) 沈潔 (2007) 中華圏の高齡者福祉と介護. ミネルヴァ書房.
 - 12) 上海市民政局 (2008) 养老设施与床位介绍. 上海市民政局.
 - 13) 徐勤 (2010) 老年长期护理的几种模式. 上海老龄科学, 02:1-7.
 - 14) 易国松·鄢盛明 (2006) 养老院老人与居家老人健康状况比较分析. 中国人口科学, 03:73-79.
 - 15) 张民省 (2008) 老龄化趋势下中国养老模式的转变与创新. 山西大学学报, 03:117-122.
 - 16) 邓颖·李宁秀·刘朝杰·杨维中·吴先萍·王燕 (2003) 老年人养老模式选择的影响因素研究. 中国公共卫生. 06:731-732.
 - 17) 王世军·薛宏 (2006) 民办养老院老人生活满意度研究. 人口与经济, 04:135-142.
 - 18) 邱刚 (2007) 上海养老机构社会化运作的研究. 上海交通大学修士論文.
 - 19) 康颖蕾 (2007) 养老院老人生活满意度研究—以成都市颐乐村养老院与颐乐福利中心为例. 四川大学修士